

放課後等ディサービスガイドライン自己評価表

アンケート実施期間:2024年12月
結果公表日:2025年3月27日

回答率

事業所職員: 6名回答、回答率 100%

保護者様: 17名回答、回答率 100%

職員の意見

○環境・体制整備

人員体制については、基準人員は満たすことが出来ているが、送迎の関係で教室内が手薄になってしまうことがあるため、送迎の調整等を行い、教室内の人員も確保出来るよう工夫する必要がある。

教室内の環境面については、身体を大きく動かすスペースと座って過ごすスペースを明確に分けている事で、安全に楽しめるように配慮をしている。個室での対応が必要な際には、カーテンで仕切りを付けて対応しているが、一人で過ごせる場所が欲しいと児童からの意見も上がっている為、今後どう空間を確保していくか考えていく。

○業務改善

業務前ミーティングにて日々の支援の統一化を計っており、教室内研修を定期的に実施することで、いざという時の対応への知識を統一化している。支援後などに定期的に振り返りを行うことで業務改善に努めている。

○適切な支援の提供

個別支援計画面談時や、相談支援を通じて保護者とニーズの確認を行っている。策定会議を実施することで、支援プログラムの具体的な対応方法を話し合っている。また、療育活動の内容は職員全員が担当するようにしており、どんな療育活動を行うかを話し合い決めることで適切な支援に繋げていく。

○関係機関や保護者との連携

保護者とは、相談支援を通じて児童の様子の共有・連携を行っている。療育センターとも児童の様子について細かく連携をする機会を設けている。また、要望に応じて、学校と関係機関連携加算を行うことで児童への統一した支援の提供を行っている為、今後も続けていくことで連携できる関係機関を増やしていきたい。今年度はコロナ禍ぶりに保護者会を開催することが出来た為継続していく。

○保護者への説明責任等

日々相談支援を行っている事もあり、保護者との連携は細かく行うことが出来ている。新規の利用者には、契約時に重要事項の説明を行い、報酬改定等での変更点は書類を用いて説明を行っている。今年度は保護者会を開催し、意見交換会を行うことで保護者間の交流も行うことが出来た。

○非常時等の対応

月1回の避難訓練にて、地震・水害・火災等について学び、避難方法についての理解に努めている。訓練時には、児童だけではなく職員でも非常時の対応について研修を行うことで緊急時に職員の対応が統一されるようにしている。また、毎年基本情報の確認を行うことで、アレルギーや服薬状況など緊急時でも対応できるように情報の聞き取りを行っている。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

体制について、約7割の方に満足していると評価いただいたが、「もう少し体制に余裕があるといいのではないか」とのご意見もいただいた。環境については、教室が構造化できている・心地よい空間であるという設問に関して9割以上の方に満足していると評価いただいた。基準となる訓練室のスペースや人員については確保できているが、訓練室の物の配置や送迎調整を行ない、より余裕が持てるように工夫する必要がある。

○適切な支援の提供

支援の提供について、子供の事を十分に理解し、子供の特性に応じた専門性の有る支援を受けられているという設問に対し、9割以上の方から満足していると回答いただいた。地域交流については、約9割のご家庭から「いいえ」「わからない」「未回答」の意見を頂いた。地域交流について、利用者のニーズや状況を鑑みて、検討していく必要がある。

○保護者への説明等

保護者への説明について、「丁寧な説明ができる」「こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮ができる」についてすべてのご家庭から満足していると回答いただいた。今後も、保護者や利用者に対して、丁寧な説明を行っていきたいと考えている。

○非常時等の対応

「事業所では非常時の対応を行えている」という設問で9割のご家庭から満足していると回答いただいたが、「事故等が起きた際にどの様な対応が行われているのか分からぬ」といった意見もいただいたため、非常時の対応について、再度周知を行うことで、すべての保護者の理解が得られるよう努めていきたい。

○満足度

9割以上の保護者から「児童は通所を楽しみにしており、安心して通所をしている」といった意見をいただき、事業所の支援に満足をしているとの意見を多くいただいた。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

- ・業務のシステム化を行い、スムーズな業務運営が出来るようにデータ化をしていく。
- ・毎月目標件数を定めてヒヤリハット事例の作成と共有を行う。
- ・社内研修や教室内研修への積極的参加をもって職員一人ひとりの専門性を高めていく。
- ・日々の業務前ミーティングの実施により、常勤職員全体での情報共有を継続していく。
- ・教室内での療育ミーティングを月に一度行い、その中でブログ記事の内容を決め、担当者を決めて更新していく。
- ・中高生への支援の一環として、就労に向けた訓練を活動に取り入れる。

○改善できた点・まだ残る課題

- ・業務のシステム化は行えたが、業務分担についてまだ改善の余地がある。
- ・ヒヤリハット事例を作成することができたが、件数は少なかったため改善が必要である。
- ・送迎等で業務前ミーティングを実施することが難しい時があった。
- ・療育ミーティングを行うことが難しい時があったが、常勤間では情報の抜け漏れがないように、時間を作つて連携することができた。
- ・ブログ更新を行なったが、不定期になってしまったので改善が必要である。
- ・就労に向けた療育活動を定期的に取り入れることが出来た。

➤ アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・利用者の特性に応じて、集団療育の課題を決めることにより、前向きに参加をすることが出来ている。
- ・教室の構造化を行なったことで、利用者がスムーズに切り替えて行動出来ている。
- ・利用者の支援計画策定会議を通じて、指導員が統一した支援を行えている。
- ・職員全員が集団療育活動を実施することで、療育の幅を広げる工夫をしている。
- ・利用者や保護者に寄り添うために、個別に相談出来る時間を設け、ご家族への支援も行っている。

○改善点

- ・クールダウンや、個別課題時に他者を気にしなくても取り組める様なスペースの確保。
- ・ミーティングを実施することが難しい事もある為、短時間でも共有する時間を作る必要がある。
- ・ブログを活用した定期的な活動報告が少ない。
- ・ヒヤリハットの提出が少ない為、職員全員が意識しこまめに事例を共有し合う機会の確保。
- ・状況に応じた職員配置に課題が有る為、職員が適切な配置にスムーズに動けるようになる。
- ・送迎時の情報等が職員全員に共有がし切れていない事がある為、全員に共有が出来る
ように声を掛け合う必要がある。

➤ 中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・ヒヤリハットの作成を事例の共有をこまめに行することで、より安全な事業所運営に努める。
- ・定期的にブログの更新をすることで、事業所内の様子を報告する機会を作る。
- ・ミーティング時間を安定的に取れるように業務の細分化と分担を明確にしていく。
- ・非常事態の際の連絡手段対応方法を統一できるよう、あらゆるシチュエーションを想定して
教室内研修を通じて知識を向上していく。
- ・教育機関と連携し、進路や支援方法を共有していくことで、児童に対する支援を統一していく。
- ・送迎時に情報共有を意識出来るようお互いの声掛けや送迎後のミーティングを実施する。

○1年間で取り組む具体策

- ・ヒヤリハット報告書の作成を毎月1件は作成し、ミーティングでヒヤリハットを共有する日を
決めることで安定して共有が出来るようにする。
- ・ブログの件数を月に2件等定めることで、療育MTGの際にブログにする内容を確定させ、
定期的に更新していくことで支援の『見える化』を図る。
- ・保護者が安心して相談支援を利用できるように、日頃の送迎時から保護者との情報共有を
丁寧に行っていく。
- ・緊急時対応について、BCPの内容について教室内研修や読み合わせを行い、
全員が対応方法を理解している状態を作る。

スマートキッズ